

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300055		
法人名	株式会社おりがみ		
事業所名	グループホーム みずひき		
所在地	三重県名張市赤目町丈六249-9		
自己評価作成日	平成29年10月13日	評価結果市町提出日	平成30年7月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2491300055-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2491300055-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成	30年	1月 17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への参加、介護教室や認知症カフェの開催によって、社会的な交流をはかり、認知症へのご理解を頂けるよう努めている。また、利用者様の社会活動参加、外出支援により生き活きとした生活が送れるよう支援。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体である法人は、市内にサービス付き高齢者専用住宅・保育所・訪問看護等を展開しており、平成28年8月から同法人が引継ぎ1年半が経過した。代表・管理者・職員らは地域密着型サービスであるグループホームの役割を理念に掲げ、その人らしい生き方を尊重するための取り組みをミーティングや研修を重ねながら実践してきた。その結果、利用者の表情が明るく会話も活発になったことで、事業所自ら評価したサービスの成果は向上し、それは職員のモチベーションの向上にも繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度、行えなかった地域行事への参加の機会も増え、理念の共有が出来てきていると感じる。	地域密着型サービスの役割を文言に入れた法人の理念は、リビングに掲示してある。中でも利用者が地域住民と交流する機会を増やす事で、地域生活の継続支援を重視している。理念の文言が長いので職員には充分浸透していない面がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生員に地域の情報を伺い、参加可能な行事に参加している。	まちの保健室でのカレー食事会や保育園の運動会、地域の夏祭りには事業所の席が設置され、利用者の毎年の楽しみとなっている。また地域主催の展示会には利用者も協力し展示する等、地域活動に積極的に取り組んでいる。	事業所と地域がお互いに支え合う関係となるために、更に地域活動を行っている団体と一緒に関わりを持ち、協力関係となることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みんなの介護教室、認知症カフェの開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事の報告や、今後の活動などを議題にあげ、意見を取り入れるようにしている。	2か月に1回開催し、市担当者や家族、地域住民の代表、駐在所、消防団等の地元関係者が毎回参加している。参加者からの地域行事の情報やテーマに沿っての意見交換は積極的に運営に活かしている。	運営推進会議は事業所の理解と支援を得るために、どのような話し合いがなされているのか、そのやり取りの内容を議事録に記載する等、参加していない家族らにも伝えるための工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組めていない。	管理者になってから1年半しかたっていない為、市担当者に相談に乗ってもらう機会が多い。防災ラジオの設置等の災害対策や、介護保険制度について直接出向き話し合ったり、普段から電話やメールで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の、勉強会などで身体拘束について話あっている。	利用者の安全を重視する事で、自由な暮らしを制限しているのではとの職員の気づきで、理学療法士と歩行や見守り方法について検討した。2階に居室がある利用者には、エレベーターで自由に階下に降りられる様に簡単な操作となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会(勉強会)で話し合い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足により、入居後の問い合わせが入ったこともあるが、出来る限り理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には必ず、声を掛けさせていただき、ご意見を頂き、日々の様子を報告している。	家族に日頃の事業所や利用者の様子を電話や手紙等で知らせ、意見が表せ易い様にしている。推進会議には家族も参加し、外部の人にも意見が言える機会を設けている。家族から利用者の日中の過ごし方について要望があり運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞く機会はあるが、全てを反映できている訳ではない。	管理者は毎日16時からのミーティングで、職員の意見を聞く機会を設け、最近床の冷え対策についての要望があり検討中である。定期的な食事会が行われ、職員の悩みや要望を聞き運営に活かされており、職員のストレス軽減にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2か月に一度、お食事会を開催し、意見交換や要望などを聞き取る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会や、外部の研修などに参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種の研修や、市内の研修には参加し交流。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、必ず本人面談を行い、傾聴を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、状況や状態を聞き取り、グループホーム以外にも選択肢がある旨を伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業などは、職員と共に行って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションは取るように話し合っているが、そこまでの関係には至っていないのが現状。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪店は行きつけのお店を利用していたり、くなどの支援に努めている。	馴染みの関係は以前関わった関係者からも聞き把握している。家族の協力で、信仰している所に参拝したり、お墓参りや自宅に出掛けている。利用者全員でドライブに出掛ける機会もあり、以前住んでいた所に寄り、思い出話をする等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症BPSDが重度の方につき、孤立してしまう事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のフォローはできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議の開催などで、意向の把握に努めている。	日頃の関わりの中で、利用者の発する言葉や表情、仕草等で思い等を把握し、職員の偏った思いを防ぐためミーティングで検討し、本人本位の意向として共有している。居室にいる時や入浴時は一対一になる為、利用者の思いが十分に表出できる様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活環境や、サマリーの確認にて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、引き継ぎ時に把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの機会が、やや少ない。	職員は利用者の状態を介護記録日誌に記入し、そこから管理者が課題を挙げ、計画作成担当者も利用者と面談して要望を確認している。半年毎の計画の見直しはケアカンファレンスで話し合い、家族には面会の場で計画案を説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、引き継ぎ時に把握に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に取り組むまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化など、申し送り等の情報にて、適宜受診、また、定期的にも受診し、かかりつけ医との連携を図りながら支援している。	受診先について利用者や家族らに希望を聞き、その結果、現在は全員近隣の協力医に受診している。協力医も含めて眼科、耳鼻科等の専門医受診には職員が付き添い、担当医に日頃の様子を伝え、受診結果は家族に面会時や電話等で知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との申し送りを大切にしており、連絡、相談、報告を行いながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリーの記入と、入院中の病院への連絡、家族への連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の話合いは行っているも、地域との関係者とまでは、支援に取り組めていない。	入居時や状態が変化した時には家族らの意向を聞き、今後のケアについて話し合いが行われている。看取りについては医療体制や職員の思いや力量等の課題があり現在実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や、情報の共有に努めているが、定期的な訓練は行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成と、避難訓練は定期的に行っているが、地域との協力体制は現在、構築中である。	年に2回消防署立会いで訓練を行っている。事業所独自の訓練は2か月に1回実施し、最近では2階の居室の利用者の誘導訓練をした。ミーティング時に「今火事が起きたらまず何をするか、」をテーマに机上訓練も含めて繰返し行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応出来ている。	各職員は自分にとって嫌な事、不快に感じることはしないと、利用者に対等の目線のケアを基本にしている。申し送りはリビングで行われ、利用者が特定出来ない様に名前を簡略する等配慮している。言葉かけについては接遇研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースになっている場面も少なからず見受けるが、個別なケアが浸透するよう、従業員一同で、注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度のヘアカット、女性利用者様へ、マニキュアなど支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、食器洗いなど利用者の体調に合わせて行って頂く。	業者から調理済の食事を利用し、食欲が増すように食べやすい様にカットしたり、盛り付けに工夫している。献立はおせち料理や七草粥等、利用者の暮らしに根付いた暦の行事食を用意したり、「屋台の日」を設け利用者の好みを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行なっている。	全職員が共通した対応が出来るよう、身近に排泄表を置き、失禁防止のため早目にタイミングを見計らって排泄を促し、利用者が傷つかない様配慮する等、個別に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食前に冷水を飲んで頂くなど、下剤に頼りすぎないように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設の時間になっている。	週2～3回の入浴であり足浴も行っている。利用者の希望は余り取り入れていないが、入浴拒否の利用者は無理強ひせずタイミングを見て行っている。寒い時期は浴室内の温度に注意して、シャワーで温め安全に入浴する為の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を毎食事確認しながら服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たこ焼きパーティーや、行事時にノンアルコールビールを提供し気分転換の支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様と家族の関係にもよるが、理髪店への外出や、お花見、紅葉狩りなど外出の支援をおこなっている。	普段の外出は近隣にある小学校や保育園までの散歩であり、子供達から声を掛けられるのが楽しみとなっている。事業所の中庭でおやつを食べることもある。又、神社の御参りや遠方までのドライブが年間を通して何回もあり、利用者が外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、お持ちしていただいてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施していない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵、工作、季節の飾り付けなど工夫している。	玄関から段差がなくスムーズに入室することができる。広いリビングは利用者の作品である習字、季節の行事に合わせた作品が飾られている。テーブルは食事、レクリエーション用に使われ、大きいために利用者同士が居心地の良い距離感となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを準備し、くつろいでいただけのようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より写真、お誕生日会の際の手作りプレゼントなどを飾るなど行っている。	各居室の殆どが状態の重度化に鑑みて、利用者や家族らと相談してシンプルな居室となっている。テレビや思い出の籐の引き出し、衣装ケース、家族写真等がバランス良く配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境は作れているが、自立支援とまでは至っていない。		